

少年消防クラブニュース

発行/ 財団法人 日本防火協会
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
 (日本消防会館内)
 TEL 03(3591)7121
 FAX 03(3591)7130
 http://www.n-bouka.or.jp
 (季刊・年4回発行)

印刷/株式会社 近代消防社

指導者からの便り

本号では、少年消防クラブの指導に当たっておられる指導者3名の方から、少年消防の育成にかける思いや活動状況について寄稿いただきました。

たくましく生きる小屋瀬の子

岩手県 小屋瀬少年消防クラブ

指導者(葛巻町役場) 中山 優彦



我が少年消防クラブは、昭和57年5月に結成され以来30年間という長きに渡り活動を続け現在に至っています。

実は私たち少年団の歴史はもっと深く、昭和52年6月に森林愛護少年団として発足し、「町の防災は幼少の頃から身につけるもの」との信念から結成に至ったと聞いています。



実はもう一つおまけに防犯少年隊も兼ねており、3つのクラブで多彩な活動を体験しています。平成22年にはモデル少年消防クラブの称号をいただき、新調いただいた鮮やかなオレンジ色の活動服で、子供達は意気揚々と明るく活動をしています。

近年、町の防災計画が見直され、行政と地域の自治会との連携による全町民参加型の総合防災訓練への参加も実現し、消防団の皆さんにも引けを取らない威風堂々たる活動を展開しています。

防災訓練では、一日消防団長や一日消防分署長などの大役も努める機会をいただきますが、我も我もと積極的な子供達の人選に頭を悩めております。将来を担う消防団のごとく、整列における敬礼姿は心を打たれるものがあります。私たちが指導者は、かつての少年消防クラブを体験した一員が主に集まり活動の指導をしておりますが、学校の先生でもない、普段つきあうこともない大人達との交流も少し楽しんでくれているのではと勝手に自負しているしだいです。時には、学校の行事と重複したり、続けざまに活動が組まれたり、子供達には負担を掛けることもありますが、子供達は何処吹く風、屈託のない子供達の姿に慰められ頭が下がります。



チームワークを大切に

埼玉県 吉川松伏少年消防クラブ

指導者(吉川松伏消防組合) 赤羽根 浩行



平成24年4月に結成した吉川松伏少年消防クラブは現在29名で毎月1回、様々な活動を行っております。結成式において消防長から「チームワークを大切にしてください」との言葉が授けられ、消防の基本であるチームワークと自分が災害にどう立ち向かうかを学ぶ活動を行っております。

まず、規律訓練から始まり心肺蘇生法やAED取扱訓練、今年8月の活動では大規模災害時における避難所での宿泊生活を疑似体験しました。避難所での生活の不自由さや最低限必要とする物資等は何か、クラブ員達は楽しさ半分、大変さ半分の気持ちで臨んだ活動だったのではないのでしょうか。

1日で自分が消費する水分量を計測し、自宅に備えておくべき水の量を把握するとともに、食事はすべて非常食として日頃の生活が



いかに恵まれているのか再認識しました。夜のオリエンテーリングではチームワークの大切さや限られた物資で何が出来るか体験してもらいたく、各チームに分かれツナ缶を使ったエコラントランを使用し、方位磁石や自分の歩幅を活用し宝探しを行いました。

また、避難所生活と同様な空間スペースに段ボールを使用し寝床作り。笑顔で就寝したクラブ員でしたが朝起きると「背中が痛い」「寝心地が悪かった」と少し疲れた表情で避難所生活の大変さを感じていました。

翌日は、水の事故に対する自分の身は自分で守ることを目的に管内にある小学校のプールを借用し、関係機関協力のもと着泳泳を実施しました。2人一組になり、衣服を着用しての浮き方や呼吸方法、救助に必要なロープワークを学びました。クラブ員は衣服を着用して



水の中ではなかなか上手く動けず、初めて体験するロープワークに苦戦しながらも指導員の話真剣に聞き取り組みました。



今後様々な体験の中で消防を知ってもらい、クラブ員を介して各家庭や学校、地域への防災意識の向上へ繋がるように指導していきたいと思っております。

Boys and Girls Fire Club
モデル少年消防クラブ活動報告会

開催日時 **2月10日(日) 13:00~、11日(月・祭) 9:00~**

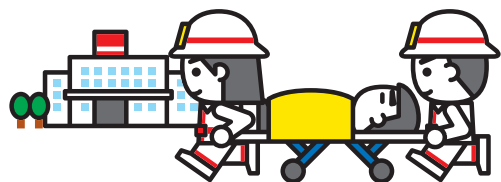
参加者 **モデル少年消防クラブ指導者等**

会場 **都市センターホテル コスモス(3階)**
 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1

内容
 ・10日 モデル少年消防クラブの実態調査結果
 少年消防クラブ交流会の開催結果
 モデル少年消防クラブの活動事例発表

・11日 前日の報告及び活動発表を踏まえての意見交換

主催:少年消防クラブ活性化推進会議
 (事務局:日本防火協会、日本消防協会)



(2面に続く)



「少年消防クラブ交流会」

「少年消防クラブ交流会」に参加した少年消防クラブ活性化推進会議専門委員のお2人と各クラブ員から感想を寄せていただきましたので、紹介します。

少年消防クラブ対抗 合同訓練を参観して

少年消防クラブ活性化推進会議専門委員

(常葉学園大学教授) 鈴木 幸平



夏真っ盛りの8月上旬、東北大地震被災県である岩手県の矢巾東小学校にて、ヨーロッパ青少年消防オリンピックの競技種目を参考とした「クラブ対抗合同訓練」が行われた。全国で初めての試みではあったが、消防庁・少年消防クラブ指導者等の企画、準備、周知、連携のお陰で、各クラブの選手は、運動場を駆けずり廻りながら消防ホースの運搬やロープの結索等に真剣に取り組むことができた。観覧・応援されていた多くの方々、18団のクラブ員とその真剣な姿勢が深く感動を与えていた様子が今でも鮮やかに蘇る。

一方、初回の試みのためか、競技運営上の改善が一部求められる場面も、期待とともに散見された。例えば、説明アナウンスメントを加えながら一連の動きを

般の方々がともに有意義に参加できる工夫の余地はまだある。

何を無から有を生み出すことは至難の業だ。けれども、震災後、少年消防への国民の期待はますます大きくなってきている。また、これまでの少年消防団の積み重ねに新たな動きへの芽が吹きはじめてきていることも事実だ。今後、この対抗合同訓練がさらに発展して、青少年消防オリンピック全国大会が開催され、さらに、数年後には「第1回アジア青少年消防オリンピック(仮称)」がここ日本で催される運びとなれば、これまでの関係者の尽力が形として現れ、進展していくにちがいない。そんな期待と夢は大きく膨らむばかりである。

少年消防クラブ活性化推進会議専門委員

(米海軍日本管区司令部消防隊予防課長) 長谷川 祐子



平成24年8月に第1回少年消防クラブのオリンピックゲームが昨年津波に襲われた岩手県で実施されました。本日に実現に漕ぎつけたなど感慨深く思いました。

私は4年ほど前よりこのクラブの育成プログラムに関わっております。その間、チェコでのヨーロッパ消防

モデルクラブを立ち上げて

(1面から続き)

山口県 厚南地区少年消防クラブ 指導者(運営指導者協議会) 三戸 雅明



「光陰矢の如し」少年消防クラブに携わって、34年を迎えます。いろいろな思い



出が脳裏に浮かびます。

宇部市消防署から、2年前にモデル少年消防クラブの申請を勧められ、全国のモデル少年消防クラブの一員になりました。このクラブ名は、「厚南防災ジュニアリーダートーム」と申します。

まずは、団員、行事、その他諸々、頭に思うことがいっぱい、手探り状態で今日までやってまいりました。団員は、高校生2名、中学生14名で構成しています。勉強、クラブ活動、塾と大変多忙な日々を抱えながら年間行事をこなしています。

本年度実施した行事を紹介します。

規律訓練とAEDの講練参加、厚南自主防災会備品倉庫内の各機材点検及び機材の始動方法の学習、新年には市消防出初式に参加します。地域の行事「ふるさと祭」にもバザー店を出しました。

地域の一員として密着した活動に力を注ぎたいと念じています。



新年には、リーダートームの募集に入らなければなりません。時間、余裕が欲しいと思っています。現小学6年生のBFC、OB、OG達が中学生になって入団してくれるであろうか、今から心配しています。また、運営指導者協議会の役員(地域の有志で構成)も高齢化して活動がにぶっており、若い育成者を育てなければと日々考えています。

います。最近では、以前クラブ員であったOB達にも声をかけています。地元へ帰って来られた若い育成者の発掘に努めなければと、少年消防クラブの発展を願うばかりです。

いつかはやって来るであろう大災害に備えて、日頃の訓練が大切であると思っています。少年少女達に防災意識を高めていただき、将来は防災のリーダーになれるような日が迎えられよう祈念しています。

終わりに、日本防火協会より立派な活動服、制服をいただきました。この制服を着用して住民のコミュニケーションづくりに参加し、安全安心な町づくりを目指して参りたいと存じます。今後ともご指導をよろしくお願いたします。

各クラブ員に交流会に参加した感想を聞きました。

東月寒少年消防クラブ

合同訓練でクラブが5位に入れたことがうれしかったです。リレーや障害物競走ではみんなと一緒に力を合わせて頑張ることができました。そして夜のカレー作りでは、みんなで役割を話し合いながら作ったので、美味しく作ることができて良かったです。



堀 琴詠さん (小6)

今回の交流会では、テントで自分よりも年上の人たちと一緒に泊まったのですが、そこでいろいろな話をすることができて、たくさんのお話を教わることができたことがとても良かったです。

(3面、4面に続く)

日本でも開けないものかという夢を持ちました。そしてそれが実現した今回の東日本第1回大会でした。

この大会は総務省消防庁、日本防火協会、日本消防協会、東京消防庁、地元自治体、消防団の大人達が心砕いて準備がなされました。頭が下がる想いです。

「将来消防団に入る人員を確保するために育成をやっていくのではない。もっと先を見ている。指導者講習会で述べられた秋本会長

の言葉です。その言葉がずっと心に残っております。未来の大人である今の子供達に、自分を磨き体力を作らせることが、明日の日本

の底力に繋がってくる。そのような子供達を作っていく事がある私達の責任である。そのように理解しました。

私達大人が心を砕き、手を掛けて子供を導いて行かなければ成し得られませんが、大きな想いのつまった大会でした。

又今回参加したクラブ員達は競技の前に陸前高田の地を訪ね献花を行い亡くなった方たちへ祈りを捧げました。海に添い生きていく人達は海から恵みと、時として悲しみを受け取ります。決して悲劇を繰り返さない。荒涼とした風景と共に心に刻みました。

これから少年消防クラブは指導者達のもと、各地で火災や災害を学び、団体行動やリーダースhipなどを学んでいきます。それに加えて消防技術を実際に取り扱えるように訓練していきます。目標をこの大会に参加できるように置き、いつしかアジアの国々の消防クラブの子供達とのアジアオリンピックを開催できるように育てていってもらいたいです。そうすれば友達ができます。友達は国と国の争いも防ぎます。

消防クラブ育ちの子供達が近い将来日本を強くする底力を育むことができますように祈っております。

小屋瀬少年消防クラブ

被災地に行って、同じ岩手県の中でこんなことが起きたのかと思うととても悲しくなりました。岩手県立総合防災センターで、実際に地震や煙を体験できたのも印象に残りました。



佐藤拓士くん (小6)

合同訓練では、ホースを結合するところが難しかったのですが、特別賞をもらうことができました。チームワーク良く、みんなで頑張った結果だと思います。

交流会に参加してみて、とても楽しかったです。他のクラブの人たちとも交流できて、いい経験になりました。

富丘少年消防クラブ

合同訓練が印象に残りました。みんなで団結して、しっかりできたところが楽しかったです。難しかったのは、ホースの連結でしたが、何とかこなすことができました。



西村海人くん (中1)

そして被災地に初めて行って、現地の様子とか、実際に見てみないとわからないことばかりで、いろいろ感じるがありました。

交流会に参加してみんなと一緒に盛り上がる事ができ、被災地見学もでき、とてもいい体験ができたと思います。

西町少年消防クラブ

富丘少年消防クラブとの合同チームで臨んだ合同訓練では3位になり、みんなで力を合わせたことが良い結果につながったと思います。富丘の子たちは私たちよりも年下なのに、ロープの結び方もよく練習していて驚きました。私たちも負けまいとしないといけないと思いました。



斎藤奈摘さん (中1)

大変だったのは、カレーを作ったときにちょっと焦げてしまったこと。交流会を通じて、みんなで力を合わせればいろんなことがうまくできるとわかったので良かったです。

芝消防少年団

今回の交流会で被災地に行って、津波の高さを実感できて、いかに自然災害が恐ろしいものかがわかりました。



田内千裕くん (中1)

心に残ったのは、5位には届かなかったけど、合同訓練で6位になったことです。みんなで頑張れたので良かったのですが、でもやっぱり5位になれなかったのが、ちょっと悔しかったです。

日頃やっていた練習の成果はまずまず出せたと思うので、これからもしっかり練習を重ねていきたいです。

日本橋消防少年団

陸前高田市での被災地見学がいちばん印象に残りました。がれきや壊れたままの建物が残っていて、とてもショックを受けました。まだまだ復興には時間がかかりそうと思ったし、被災地支援はまだ必要だと感じました。合同訓練では、出来としてはあまり良くなかったのですが、楽しく行うことができました。



神林優樹くん (高1・準指導者)

今回の交流会に参加してみて、夕食のカレー作りにしても、みんなで力を合わせて取り組む、頑張ることの大切さを学べたように思います。

能代市少年消防団

合同訓練でのクラブ対抗リレーでは、結果は11番目とちょっと失敗してしまいましたが、最後まであきらめずにみんなで頑張れたのが良かったです。



佐藤保奈美さん (中1)

被災地見学では、テレビで見るよりも自分の目で見るほうが、心を打たれました。こんなにひどかったんだということが実際に見てわかりました。

今回参加してみて、夕食作りでも、みんなで協力してやることの大切さを学べたと思うので、これからの生活に生かしていきたいです。

大森消防少年団

陸前高田市での被災地を見たことが一番印象に残りました。いままでテレビではたくさん見ていたけど、実際に自分の目で見て、自然の恐怖をあらためて知ったように思います。



青山翔太くん (小6)

そして、キャンプでの夕食作りはとてもうまかったです。カレーも10点満点中、11点！とても美味しかったです。

交流会に参加して、東京から参加しても、現地のスタッフさんとかが優しく受け止めてくれたのが嬉しかったし、たくさんの人と交流することができました。

上野消防少年団

合同訓練では、自分ではまずまずうまくできましたが、クラブで5位以内に入れなかったのは少し残念でした。今回参加してみて一番印象に残ったのは、やはり被災地でのこと。陸前高田市に行って、テレビで見るよりも実際の雰囲気は良くわかりました。周りにはがれきがたくさんあって、まだまだ大変だと思いました。現地の人の話を実際に聞くことができたのも印象に残りましたし、これからも周りの人たちに支えていかないと感じました。



小松治紀くん (中1)

日本堤消防少年団

印象に残ったのは合同訓練でのリレーです。今まで練習をあまりやっていたのが出てしまったのもっと日頃の訓練を頑張っておけば良かったと反省しました。18クラブ中、16位で、みんな中学生なのに、小学生に負けてしまい情けない思いをしました。夕食のカレーは、少し水が少なくて焦ったけれど、最後はまずまずうまくできたかなと思います。



伊東桃子さん (高1・準指導者)

今回参加してみて、他の少年団の人と関わることができたことは良かったと思いました。

豊島消防少年団

被災地には初めて行ったのですが、テレビで見るより少し片付いていましたが、まだまだがれきも残っていて大変だと思いました。被災地を生で見る事ができ、現状などを体験できたことはとても良い経験になったと思っています。



長橋栄二くん (中2)

合同訓練は平均台がちょっと難しかったですが、楽しみながらできました。中でもクラブ対抗リレーが楽しく、クラブのみんなで息を合わせながら最後までできたことが良かったです。

成城消防少年団

合同訓練では順位を見たら7位。もうちょっと頑張れば5位に入れたのに、と少し残念でした。被災地に行って、今までテレビで見てもあまり実感がなかったというか、きちんと現地のことを把握できなかったのが、今日初めて生で見て、そこで苦しんだ人たちがどういう状況だったのかがわかるような気がしました。



野々山凜さん (小6)

私の親戚も東北にいるのですが、被災地に行って、被災した人のことを考えれば、自然災害への関心も高まるのではないかと思います。

矢口消防少年団

陸前高田市の見学では、テレビで見たものとは違い、津波の恐ろしさが伝わってきました。



上高優香さん (小6)

合同訓練では、練習する時間があまりなかったので、うまくできないところもありました。この悔しさを次に生かしたいです。全国から消防クラブの人が集まっていて、日頃こうした機会はないので、たくさん話もできて良かったです。仲のいい友達もできました。都内の少年団とも、近くてもこれまでなかなか話す機会もなかったので楽しい3日間でした。

日野消防少年団

ニュースなどを通じて被災地の様子はわかっているつもりでしたが、行ってみたいそんな風に思っていた自分を恥ずかしく思いました。現地に行かないと実感できない風景で、何もかもなくなって、まだまだ荒れたまま。忘れてはいけない、まだまだやらないといけないかあると思いました。



五十嵐晴香さん
(中2)

交流会では、顔も知らない、話もしたことなかった人と「タオル貸してくれる？」という言葉から友達になることができたり、とても良い経験ができました。

昭島消防少年団

被災地に行ったことはとても印象に残りました。津波の高さがすごくて、あんなに高いところまで津波がきたなんて信じられない気持ちでした。



高橋真穂さん
(中2)

合同訓練は、うちみんな中学生なのでハンディがあって、なかなか良い成績にはならなくて残念でした。ポウリングが少し難しかったです。交流会では、ほかのクラブの人ともたくさん交流ができて良かったです。同じ部屋だったり、挨拶したら気持ち良く返してくれたり、楽しかったです。

江戸川消防少年団

被災地に行ってみて、これまで写真などでは見たことがありましたが、1年もたっているのに、そのままの状態だと感じてまだまだ大変だと思いました。合同訓練は、負けて悔しかったけど、みんなで力を合わせて頑張れたのは良かったです。前の日に、ロープの結び方をみんなで部屋で練習して、おかげで覚えることができました。



垣澤萌枝乃さん
(中2)

楽しかったのは、1日目の宿舎の部屋で、みんなで語り合ったこと。とても良い思い出になりました。

三郷市少年消防クラブ

合同訓練では1位でした。優勝できたのは、頑張っって練習したことです。みんなで倒れるほど練習しました。家でも自主練習しましたし、チームワークも良く力を合わせて頑張ることができました。日頃の仲の良さが発揮できました。

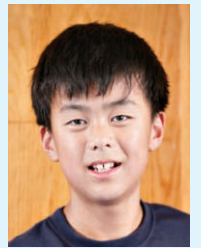


阿部佑香さん
(小6)

今回参加してみて一番良かったのは、他のクラブ員の人たちと交流を深めることができたこと。北海道や秋田のクラブ員の人とも仲良くなれ、こういう機会がないとなかなか交流することもできないのでとても良かったと思います。

秋川消防少年団

陸前高田市の被災地を初めてみて、びっくりしました。まだまだ荒れていて、大変だと思いました。



野本雄太くん
(中1)

合同訓練では、ホースを転がし、ボーリングピンを倒すのが難しかったです。交流会で現地に到着するまで、すごくワクワクしていて、実際に来てみて、合同訓練が難しかったけど、とても楽しかったです。

たくさんの仲間と会うことができ、みんなと一緒に3日間を頑張ることができて良かったです。



宝くじは、 地方自治体の公共事業等に 幅広く使われています。

宝くじの収益金は、
病院や検診車、図書館や動物園、
災害に強い街づくり、
緑あふれる公園、美術館など、
皆様の暮らしに役立てられています。

ワクワク、
ドキドキ。

あなたに夢を。街に元気を。



クーちゃん

宝くじ